

〈筑波大学附属病院・婦人周産期グループで行われている介入を伴わない後方視的観察研究〉

患者様へ

このコーナーには当診療グループで行われている多施設共同の「介入を伴わない後方視的観察研究」が列挙されています。「介入を伴わない後方視的観察研究」とは、既に治療が行われた患者様の診療内容についてカルテ(診療録)から調査し、カルテに記載されている範囲内で分かる最新の患者様の健康状態などと照らし合わせて、これまで行われた治療の問題点を探り出し、その解決法を探ったり、新しい治療体系を構築したりする研究を行うものです。当診療グループで行われるこのような観察研究では、ご氏名やご住所など個人を特定できる情報は病院外には提供いたしておりません。

このような観察研究の対象となる患者様の中には既に治療や外来通院期間を終えられていたり、転居などで当院には通院していらっしゃらなかったり、またご不幸な結果を迎えてしまった患者様も含まれ、研究へのカルテの情報の提供につき、患者様1人、1人に説明しご同意を得る事は現実的には不可能です。

そこで、このコーナーのような形で研究内容を公開しております。もし、ご自身が研究の対象者に該当する可能性があり、研究への診療情報の調査を行ってほしくないなどのご意志や苦情等がございましたら、研究項目毎に「保有する個人情報の問い合わせ・苦情等の連絡先」が記載されておりますのでお問い合わせください。研究結果が公表されるまではいつでも拒否することが出来ます。

本研究の対象者は2019年7月に、日本医療研究開発機構委託研究費(医薬品等規制調和・評価研究事業)分娩研究「産科ガイドラインの改定および他学会診療ガイドラインへの提言」としてアンケート調査を行い、回答していただいた、全国の日本産科婦人科学会専攻医指導病院599施設の指導医である。

研究課題

他診療科学会作成の診療ガイドラインにおける妊娠に関連する記述・産婦人科医の認知度、活用度とその問題点

研究の意義・目的

わが国の産婦人科以外の診療科学会が作成している診療ガイドライン(GL)にも妊娠に関連する内容が増えていますが、産婦人科医にどの程度認知され、活用されているかは明らかではありません。本研究の目的は、こうした他科診療GLについての産婦人科医の認知度、活用度とその問題点を明らかにすることです。

研究の方法

2019年7月に全国の日本産科婦人科学会専攻医指導病院599施設にアンケート調査

を行いました。最近約 3 年以内に作成された糖尿病診療 GL、炎症性腸疾患診療 GL、腎疾患患者の妊娠診療 GL、てんかん診療 GL、喘息予防・管理 GL、高血圧治療 GL、バセドウ病治療 GL の、妊娠に関連する記述についての認知度、活用度とその問題点について調査、解析しました。

代表施設名、研究組織代表者

筑波大学医学医療系 臨床医学域 婦人・周産期 講師 八木洋也

保有する個人情報に関する利用目的

後方視観察研究

保有する個人情報の開示手続

筑波大学附属病院のホームページにある「お知らせ」の中の「筑波大学附属病院の個人情報の取り扱いについて(PDF)」を参照。

保有する個人情報の問い合わせ・苦情等の連絡先

筑波大学医学医療系 臨床医学域 婦人・周産期 八木洋也

TEL: 029-853-3073 (産婦人科 平日 9:00~16:00) , FAX: 029-853-3072